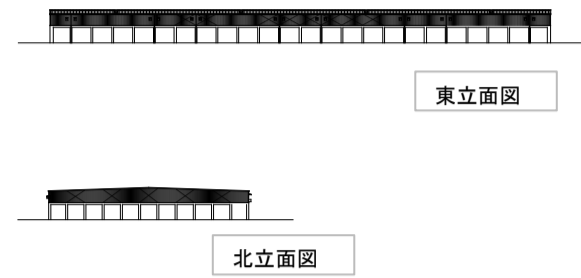


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知蒲郡バイオマス発電所(燃料一時貯蔵棟)	階数	地上1階
建設地	愛知県蒲郡市浜町27番、28番、29番、30番、32番2	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	3人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年4月20日
敷地面積	21,840 m ²	作成者	小森 裕二
建築面積	11,655 m ²	確認日	2021年4月30日
延床面積	11,592 m ²	確認者	小森 裕二



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 0.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">22.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p> </div>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p> </div>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		重み係数	全体	
				評価点	評価点	評価点	評価点			
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策										
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	
4.2 換気										
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自			3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観(天井高)				3.0	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数				0.3	2.6	0.33	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			-	3.0	0.36	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	2.0	0.36	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.12	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備				0.1	3.0	0.19	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	-	-	-	-	-	
3 電気設備				3.0	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.4	3.9	0.48	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高=10.85m 壁長さ比=0.04	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	2.2	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	-	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	1.0	0.40	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.40	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	2.7
LR1 エネルギー				-	-	-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=-	3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=-1	3.0	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用				-	-	-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング			3.0	-	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制			3.0	-	-	-	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.50	-	-	-	3.2
1 水資源保護				-	-	-	-	-	-	-
1.1 節水				3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				-	-	-	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	-	-	-	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	-	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				0.7	3.0	0.74	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.10	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.28	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.28	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	鉄骨躯体。胴縁、壁材、屋根材はボルト・ビスで分解可能	3.0	5.0	0.34	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.0	0.26	-	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.5	0.68	-	-	-	-
1	消火剤		水噴霧消火設備の採用	-	4.0	0.50	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		水噴霧消火設備の採用	-	5.0	0.50	-	-	-	-
3	冷媒			3.0	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	-	0.50	-	-	-	2.1
1 地球温暖化への配慮		①		-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	1.0	0.50	-	-	-	1.0
2.1 大気汚染防止				-	-	-	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				-	1.0	0.67	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.3	1.0	0.33	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	独自		-	-	-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制			-	-	-	-	-	-	-
3	交通負荷抑制	独自		-	1.0	0.50	-	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.50	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮				0.5	3.2	0.50	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	-
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	-
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	-
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		外部に向けた窓の設置なし	-	5.0	0.70	-	-	-	-
2	屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

愛知蒲郡バイオマス発電所(燃料一時貯蔵棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.37	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:22.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	発電施設の中の一部建屋。 用途は燃料貯蔵のための倉庫。全体の中の燃料貯蔵棟のみをCASBEE評価するにあたり今回仮想敷地を設定した。 空調のない常温倉庫のため、該当する設備が限られており、また、全体敷地外への引込、排出等は別工事となっており、評価対象外の項目が多くある。
Q1 室内環境	建物用途「倉庫」のため「Q1室内環境」は評価対象外
Q2 サービス性能	建物用途「倉庫」のため「Q2:1. 機能性」は評価対象外。 2. 耐用性、信頼性 空調設備、受電給電設備、給排水設備なし。 3. 対応性、更新性 大空間のため自由度高い。
Q3 室外環境(敷地内)	仮想敷地設定条件下での評価 外構緑化指数22.5%。 防犯に配慮した。
LR1 エネルギー	「居室を有しないことにより空気調和設備を要しない施設」のため「建築物省エネ法に係る適合性判定」届出対象外 LED照明等を採用し、省エネに配慮した。
LR2 資源・マテリアル	「居室を有しないことにより空気調和設備を要しない施設」のため建築物省エネ法に係る適合性判定省エネ適合判定対象外 自然エネルギーの活用のためトップライトを採用した。
LR3 敷地外環境	2. 1大気汚染防止 仮想敷地内では燃焼機器は使用していないが、敷地全体の評価ができないため対象外とした。 2. 3地域インフラへの負荷抑制 敷地全体の評価ができないため対象外としている
その他	特になし